第三軍団

全国全共闘第三軍団書記局発行
日大・中大・専修大・東農大・武蔵大・駒沢大・明大
連絡先 TEL（992）9142 武蔵大新聞会

11・13－17首都制圧・羽田占拠！

5日間の激動へ総結集せよ！

全国全共闘軍団に結集する全ての学友諸君！

■新宿に結集した万余の人民大衆を背景に闘われた10・21闘争は我が全国全共闘軍団、反戦軍団そして高校生軍団という組織された正規軍による闘いによって、まさに侵略と抑圧に全体重をかけんとしている日帝の空前の弾圧体制をハネのけ、安保粉砕・日帝打倒への巨大な突破口としての沖縄奪還＝11・13～17への限りない展望、我々に与えた事をはっきりと確認せねばならない。

■10・21闘争が切り拓いた展望の核心はどこにあるのか。それはまずもって圧倒的な人民大衆を牽引する計画的組織的軍団として我々が登場し得たと同時に、我々の死をも恐れぬ闘い＝「肉弾の思想」と固い階級的任ムを自覚した決意であった。その中にこそ国家権力の10月非常体制10・21全都ロックアウトという異常時を高田馬場―新宿の解放というプロレタリア的正常に転化させる鍵があったのである。そしてその闘いのうちに11月佐藤訪米阻止＝11・13～17へ向けてまったく新しい情せを切り拓いたのである。

それは権力・ブルジョアマスコミがひたかくしに隠していた反戦派労働者の激烈な闘いと沖縄現地の闘いである。高田馬場を中心とする反戦の闘いの激烈さは周知の事実である。この労働者の「10・8」10・21闘争は、この力によって機動隊殲滅への突破口となったと同時に、ブルジョアマスコミでさえ職場を失う決意と死をも恐れぬ強力な持った反戦の力強い闘いの前には正面切って「暴徒」呼ばわりする事が出来ず、ひたすら暴力学生として革命の主役＝労働者の闘いを隠蔽しようとした。しかし八名の革命的教師を先頭にあらゆる職場で反戦が討論の中心となり、増々労働者が結集して来ているのである。また、戦后二十余年もの分離支配＝永久核基地化の中で苦しめられてきた沖縄人民の前に登場した沖縄県反戦全学連の英雄的同志は武器を以って基地に突入し、死刑あるいは無期という弾圧をハネのけて闘う方向性を全人民の前に明らかにし、百万沖縄県民の基地撤去の闘いは蠢動が始まっているのだ。

■すでに戦后世界体制がＩＭＦ体制の崩壊的危機とベトナムに於ける敗北という形で根底的な動揺を開始している中にあって、日本帝国主義とその危機と矛盾の深化という事態を帝国主義者の手による「沖縄問題の解決」＝安保の実質的大改定と統治形態の警察国家化を以ってしか乗り切れないのである。帝国主義者にとって沖縄は「極東の要石」でありアジア侵略の軍事的環であるがゆえに「本土並み」返還は大ペテンであり、沖縄の永久核基地化本土の沖縄化以外の何物でもない。だとするならば日米交渉によってＢ52・核・の問題が一切明らかにされないのは当然であり、これに対して高まりゆく人民の闘いは機動隊万能主義による隠蔽に佐藤の政治生命は一切がかかっているのだ。

■10・21に於いて国家権力が全ての商店学校・会社等々を休業させ全都ロックアウトの形でもってしか、即ち「市民秩序の維持」のために市民の自由を奪うという自己矛盾に満ちた方法によってしか我々の闘争を弾圧出来なかったことを見るならば、そして我々がその戒厳体制を基本的に突破出来たことを見るならば五日間の激闘に為すべきことは明白である。即ち10・21に於ける権力の作り出した全都ロックアウトとそれを打砕する安保粉砕・沖縄奪還の闘いの革命的爆発を!!17の訪米以前に圧倒的に作り出し、遂に全都全国を訪米阻止のウズでもってうめつくすことなのだ。「10・21」的情況を五日間創出し得るならば佐藤政府を根底から揺り動かす力と成り得るであろう。この時彼等が自らの運命をかけて一切の人民の闘いを機動隊によって圧殺し、「沖縄返還交渉」なるもののペテン性を隠蔽しようと警察国家治安国家へと移行しようとする策動は完膚無きまでに粉砕されるのだ。そうであるが故に我々は特にあの沖縄県民が全県ゼネストで訪米阻止に立ちあがる13日に67年10・8羽田以来の全てを投入して全都制圧を貫徹しなければならない。

全ての学友諸君！11・13は何が何でも勝たねばならない。七十年代の歴史選択として11・13をとらえよ！13～17首都制圧羽田占拠へ闘う学友は全国全共闘第三軍団へ結集せよ

11・5 P.M. 5:00～ 中核派政治集会に結集せよ！
三鷹公会堂